キャラクター名: 瀬々倉 光葉(せせくら みつば)

プレイヤー名:

シンドローム	オルクス エンジェルハィロゥ	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプショナル	サラマンダー	年齢	16	性別	女
覚醒	渇望	衝動	憎悪	初期侵食率	39 %
出自	親戚と疎遠	経験	記憶喪失	邂逅	自身

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	1	0			1
感覚	4	0	0			4
精神	2	0	0			2
社会	2	0	0			2

HP	24
行動値	10
(非装備時)	10
戦闘移動	15
全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
伸縮性警棒	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
遺産継承者：海鳴の石板	P	N		
須崎 嶺	P 感服	N 侮蔑		
No.5	P 懐旧	N 悔悟		
記憶の中の誰か	P 懐旧	N 憎悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P： 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
CR：《オルクス》	2	2	メジャー	2	ー	ー	ー	
効果：	C値-Lv(下限7)							
形なき剣	1	2	メジャー	武器	ー	対決	ー	
効果：	ドッジのダイス-Lv個							
光の舞踏	1	2	メ/リ	武器	ー	ー	ー	
効果：	【感覚】で白兵判定を行う							
要の陣形	2	3	メジャー	ー	3体	ー	ー	
効果：	対象を3体に変更							
氷神の悲しみ	1	3	メ/リ	ー	ー	ー	ー	
効果：	ダイス+〔Lv+1〕個　HP-3							
縮地	4	2	オート	至近	自身	自動	ー	
効果：	移動時任意の場所へ　離脱可能							
バックスタブ	4	ー	常時	至近	自身	自動	リミ	
効果：	縮地時攻撃力+〔Lv×5〕							
領域の盾	1	4	オート	至近	単体	自動	ー	
効果：	対象にカバーリングを行わせる							
支配者の呪詛	2	5	オート	視界	単体	自動	憎120	
効果：	対象の達成値を-〔Lv×5〕ロイス限							
透明存在	★	ー	メジャー	至近	自身	自動	ー	
効果：	人の意識から外れる　機械は無理							
見放されし地	★	ー	メジャー	至近	自身	自動	ー	
効果：	光を屈折させ闇を生み出す							
効果：								
効果：								

藪蛇　HO2
シナリオロイス:No.5　推奨感情:懐旧/悔悟
カヴァー/ワークス:指定なし/指定なし
【概要】
君には過去の記憶に一部欠落している部分がある。しかし、何処かの研究所で四人の仲間と共に実験を受けていたことは胡乱に覚えていた。(研究所に入れられる以前のことは自由に設定してよい)。君達はお互いを番号で呼び合っており、君は『No.1』だった。しかし研究所が事故で壊滅した際に君以外は行方不明になってしまった。
そんな折、君の前に『No.5』と名乗る少女が現れる。君は彼女から話を聞く中で、街にジャームが潜伏していることに気付き、PC4の元に向かった。
また、君は実験の影響で感情や欲望が希薄だった。今はどこかの家庭や組織に拾われているため、多少は改善されているかもしれない。
シナリオ中に白兵武器が手に入るため、白兵型を推奨

研究所が事故により壊滅した後。気が付けば行き倒れたところを『夜桜家』という家に助けられていた。以後、夜桜我妻の好意(多分)によって高校へ通っている。
瀬々倉光葉には記憶が無い。壊滅した研究所で行われていた実験の事は朧げに想起することも可能だったが、思い出せるのは番号で呼び合っていた仲間達のみ。しかしそれよりも、研究所に至るまでの己の根源が、存在のルーツが彼女には存在しなかった。研究所より過去の記憶を、何も思い出す事が出来ない。研究所が消えた時点での彼女の所持品は、研究所でもずっとつけていたペンダントと、着ていた衣服のみで、身分証の様なものも特にない。
幸い日常生活に支障は無かった。というのも、失われたというのは所謂「エピソード記憶」というもので、『思い出』だけが存在しないのだ。
確かに勉強したのであろう知識や、今までで培って来たのであろう人間社会を生きる上での常識。そういった事柄は頭にキチンと残っている。しかし、彼女はそれをどうやって積み上げて来たのかを思い出せない。
実験によって感情や欲望が希薄。しかし、夜桜家に拾われたこと、そして本人も『こういう時は、こういう感情を抱く』という事は□知っているので、表面上は普通の女子高生にも見える。客観的に見た場合彼女は礼儀正しく、素直で、朗らかな雰囲気を醸し出す少女でしかない。